

安乗崎灯台

1681 年、江戸（現在の東京）に米を運ぶため、徳川幕府の船が日本の海岸沿いを航海する際、船の道しるべとして、この場所がかがり火が灯されるようになりました。1873 年には木製の灯台がその役目を引き継ぎました。イギリス人技師リチャード・ヘンリー・ブラントン（1841-1901）が設計したこの灯台は、船の誘導に重要な、光を長距離に渡って投影するフレネル式レンズを使った日本で最初の灯台です。安乗崎灯台資料館では、このレンズのひとつを間近に見ることができます。

現在のコンクリート製灯台は 1948 年に遡ります。1998 年、珍しい四角形の形状のおかげで、日本の灯台 50 選に選ばれました。灯台の上に登ると、一方では海が穏やかな的矢湾、もう一方では荒々しい太平洋という、迫力ある眺めが一望できます。冬のよく晴れた日には、ここから富士山が見えることもあります。

江戸と大阪の中間地点として、安乗は様々な文化が混ざり合う土地になりました。日本の人形劇である文楽は、そのような 文化的発展の一例です。文楽はこの地の人々の間で受け継がれ、今なお、毎年 9 月中旬に安乗神社で演じられています。